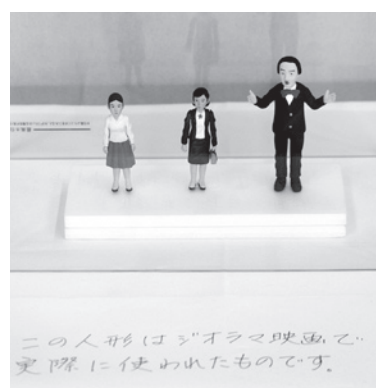


# 芸術振

特定非営利活動法人 大分県芸術文化振興会議  
通巻第129号 2010（平成22）年3月31日発行



芸術文化事業  
「麻生八咫・子八咫の親子活弁と  
ジオラマ映画『ゆめまち観音』」  
平成21年12月6日(日) 13:30～ 大分文化会館大ホール



「文化を語る夕べ」平成21年12月17日(木) 大分東洋ホテル  
・ウェルカムコンサート  
別府溝部学園短期大学ハンドベルリナゲーズ

# 仲町先生を偲んで

## 仲町謙吉さんの業績

狭間 久

仲町謙吉さんの業績は大きく①画家として②教育者として③社会活動家としての3点に分けられると思う。

第1点の画家としては、大分師範2年の、16歳の時、日独伊親善図画展に白杵石仏を描いた絵が入賞したこと。これで画家になる決心がつき東京美術学校へ進むことになり、また白杵石仏がライフワークになった。美校の卒業制作「深田石仏」は文展に入選、画家としてデビューした。以後、大分では県美展、中央では光風会展、日展に出品。77歳、78歳の時、県美展で第一席最高賞を続けて取り、画業を完成させた。

第2点の教育者としては、大分大学の開校と同時に助教授になり、実技を中心に色彩学や美学美術史を教え、教育学部長も務めた。この間、造形教育にも力を入れ、県児童生徒創作美術展を30年間開いた。これは高山辰雄画伯の文化勲章受章をきっかけに「高山辰雄賞ジュニア県美展」になり、現在も続いている。

第3点の社会活動家としての業績は最も大きかったと思う。戦後21年6月、県美術協会が発足すると、事務局員になり、昭和40年、県美協が写真、書道と統合して現在の県美協になった時、事務局長を務め、60年から平成2年まで会長を務めた。この間、41年に発足した「県立美術館建設期成会」（上田保会長）の事務局長として、美術館建設促進に全力を尽くした。しかし仲町氏を中心になってつくった県立美術館構想は、結局は無視され、県立芸術会館の開館となって実らなかったが、それが現在に尾を引いている。

県立美術館建設運動とともに県芸術文化振興会議（芸振）とのかかわりも深くなり、「県芸術祭運営協議会」の議長を務め、また54年から3億円の「県芸術文化基金」運動にも尽力した。特に60年に文化基金の運用が始まると、事業担当の理事として、学校巡回公演や文化キャラバン、芸術文化団体補助事業、国外における研修補助などの新しい事業を取り入れた。また60年には県の「21世紀豊の国文化創造懇話会」の第2専門部会（芸術、伝統文化）の部会長として、「国民文化祭」の誘致を提言。平成2年に芸振の会長になると、「国民文化祭」の誘致と開催に取り組み、平成10年にこれを成功裏に実現させた。そしてこの年まで34回開かれた県芸術祭を県民芸術文化祭として再生させ、現在に至っている。つまり現在の芸振の活動の基本は仲町氏によるところが多いのである。

## 略 歴



平成16年12月13日 文化を語る夕べ  
芸振の特別感謝状に対して謝辞を述べる仲町先生

|       |                                                                                          |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大正9年  | 大分県白杵市に生まれる                                                                              |
| 昭和18年 | 東京美術学校師範科卒業                                                                              |
| 24年   | 大分大学に赴任                                                                                  |
| 40年   | 3団体統合・現大分県美術協会事務局長となる                                                                    |
| 47年   | 大分大学教授となる                                                                                |
| 51年   | 1976年図画工作美術教育研究大会会長となる                                                                   |
| 53年   | 文化庁長官表彰を受ける                                                                              |
| 54年   | 大分大学教育学部長となる                                                                             |
| 59年   | 大分大学定年退官。記念個展<br>大分県美術協会会長（3期6年）となる                                                      |
| 63年   | 大分合同新聞文化賞を受賞する                                                                           |
| 平成2年  | 大分県芸術文化振興会議会長となる                                                                         |
| 6年    | 勲三等旭日中綬章を受章する。                                                                           |
| 9年    | 「青い鳥・天華」大分県美術展「優賞」「OG賞」を受ける                                                              |
| 10年   | 「火の鳥・阿」大分県美術展「優賞」を受ける<br>第34回大分県芸術祭受賞（12月）する<br>第13回国民文化祭おおいと98 大分県実行委員会副会長<br>同企画委員長となる |
| 11年   | 1999第50回記念造形表現・図画工作・美術教育全国大会<br>大分大会会長（6月3・4・5日）となる                                      |
| 12年   | 傘寿個展                                                                                     |
| 19年   | 大分市美術館個展                                                                                 |

# 理事長 が聞く vol.7

平成20(2008)年10月1日、大分県立芸術文化短期大学学長に就任した中山欽吾氏(東京二期会常務理事、大分市出身)にお話を伺いました。



芸振理事長  
佐藤 朱音

大分県立芸術文化短期大学学長  
中山 欽吾さん

## 芸術文化短期大学が県立で存在する意味

### —社会へアピール

佐藤 今日はよろしくお願ひいたします。

中山 こちらこそよろしくお願ひします。お話しできることを楽しみにしていました。

佐藤 ありがとうございます。中山学長とは会議などでご一緒させていただくことも多いのですが、まだ学長に就任されてから1年半、そんな短い期間のような気がしません。それだけ大分に馴染んでいらっしゃるのですね。

ご一緒の会議でも、少し違った視点から発言されて、「そうなんだ」と気づくことも多く、スカッとした気持ちになりますね。会議の雰囲気随分変わりました。

中山 そうですか？ 言いたいことを言うからでしょう(笑)。

佐藤 ところで、すでに東京で大きな責任を負っておられる中での学長就任でしたが、どのようなお気持ちで決断されたのですか？

中山 私は30数年、ビジネスの現場にいたんですが、養父(故・中山悌一氏)が立ち上げた二期会(オペラ団体)の経営を立て直してくれと言われて、この10数年、経営と運営に携わってきました。芸短大の学長に、とのお話があったときには正直、驚きましたよ。芸短大は特に経営の立て直しが必要ということでもないですし、私に何を期待しているのかということを考えましたね。私は今も東京と大分を半々くらいで行き来しています。東京にいること—これは地方で何かを実行するときにプラスになります。風を掴むことができるんです。地域のオペラ団体が東京からアドバイザーやコメンテーターを呼ぶのは彼らの持つ情報量が違うからです。私に求められているのはこういうことかなと考え、恩返しになればとの思いで決めました。なんといっても私の故郷ですから。

佐藤 学長に就任された印象は？ どのようなこ

とをやってみようと思われたのですか？

中山 とにかく学生が素直で、前向きなことに驚きました。さらに先生方もとても前向きでした。この気持ちを県立の短期大学が存在する価値につなげられないか、もっと外に訴えていくことにつなげられないかと思ったのです。もっと芸短大の露出を増やし、地域社会との接点を増やしていこう、その仕掛けが大事なんだと。そのために広報室を置き、専任の広報マンを置きました。イベントをするからには外に向けての効果がないはいけません。芸短大は4学科あり、それぞれの学科が独立性を大切にユニークな学風を培ってきたんですが、他の学科のことは無関心に思えました。音楽科の最大行事である定期演奏会も音楽科だけでやっていましたし。そこで10月から12月までの3か月を「芸短フェスタ」と位置づけ、全学上げて取り組む気風をつくろうとしたんです。もちろん学科単独でやってもよいのですが、とくに大きなイベントには大学全体で取り組もうとする気持ちが大事なんですね。イベントをピックアップすることでやる気も生まれ、社会にアピールする大学としての盛り上がりが生まれてきたと思いますね。

佐藤 最近、芸短大がすごく明るくなったイメージがあります。大学の先生方のことや大学のことなど中身がよく分かるようになってきた。

中山 「これまでであった仕切りの向こうにドアが開いた」という感じ、風通しがよくなりましたね。私の意図したことはかなり実を結んだと思いますが、まだまだこれからです。

佐藤 内容はもちろん、そもそもの発想から企画、広報、実施といった展開、そういった流れ



全体に新鮮な印象を持ちました。次々と新しい取り組みや事業を繰り出されるスピードには驚かされました。芸短フェスタの他にも、学長プロジェクトがありますね。

### 人脈・かけ声・人寄せパンダ

中山 学長プロジェクトは県民公開講座にしています。大分から県外に出て行った方に里帰りしてもらって、学生や県民に興味のある話題を提供してもらっています。大分は多彩な人材を輩出しているのに、大分にいる人にはそれに触れる機会がないのはもったいない。生み出す力があるのに、受容する土壌（経済的な）がないんですね。

佐藤 さすがに内容の詰まった事業でしたね。わらび座の是永（幹夫）さん、声楽の佐々木典子さんの時には私も拝見させていただきました。



中山 ありがとうございます。ベストセラーを出している樋口裕一さんなどにも来ていただきました。今年も前びわ湖ホール館長の上原恵美さんなど、次々に来ていただきます。東京にいて二期会やクラシック音楽事業協会に所属しているからだと思いますが、その人脈を生かして、私はかけ声をかけるだけでいいんです。実務は事務局に任せていますので、事務方は大変だと思いますよ（笑い）。事務局は教員たちとも信頼していますので、このようないい関係の上に成果がついてきたのだと思います。

佐藤 学長、先生、学生、事務局の前向きな気持ちが合わさって結果が出る。理想的ですね。これも学長のご指導の賜ですね。

中山 それが違うんです。私が就任する前に、学生たちの資質と意欲があり、先生方も熱心に地域活動に取り組まれていたベースがあったんです。私は既に始まっていた活動を県民に見えるような形にしてくただけです。私は「人寄せパンダ」でいい（笑い）、できるだけ露出するようにしてきました。その機会も事務方が作りだしてきたこともあります。それが芸短大の持っている地力を社会にアピールできたということだと思います。

「飛び出せ芸短生」といつも言っているんですが、その一つのサービslラーニングが文部科学

省「大学教育推進プログラム（GP）」に選ばれて、多額の活動助成をいただくこともできました。

佐藤 サービスラーニングというのは？

中山 大学での教育と地域で行う実践活動を組み合わせた体験学習で、なおかつ学生は自身の物語として外に伝えていくんです。

佐藤 今までやっていたことでも視点や組み合わせを変えて、これまでにない成果があがるということですね。私どもにとって大変参考になります。

中山 ところで、佐藤理事長とお話するということになって改めて考えてみたのですが、案外、芸振のことを知らないということに気づきました。芸振のような組織は全国にも珍しくないですか？

佐藤 各県に多分野の文化団体が集まった文化協会のようなものはありますが、成り立ちや構成を見てみると、芸振のように、実際に文化活動をしている団体、個人が直接会員となって運営している組織は珍しいと思います。

### 学生の受け止める力が伝える熱意と出会う

中山 昨年は芸振の会員「さくら会」の皆さんが芸短大の大講義室で日本の伝統芸能・長唄三味線講座をしてくださいましてね。皆さんの「学生に伝えたい」という熱意を強く感じました。このような機会を与えていただけてとても感謝しています。

佐藤 「さくら会」の皆さんも大変喜んでおられます。そのときに興味を持った学生さんが今秋の県民芸術文化祭開幕の舞台を目指して、三味線を勉強していると聞きました。

中山 ええ。三味線をやりたいという学生がいることにも新鮮な驚きを受けました。それも音楽科の学生ではなく、国際文化学科の学生たちなんです。うちの学生には感性を受け取る力がありますし、色々なことに前向きに取り組んでほしいと思います。

ところで、芸振のような団体がうまく機能しているのを見ると、大分県では文化活動者の最大公約数となる意見を集約するしくみが整っているんじゃないですか？

県は文化行政だけ携わり、団体が実践する。県と文化団体との関係が上手くできていると思いました。

佐藤 私たちの目標は、言ってみれば人と交わること。同じ芸術文化の高みを目指すものとし

て、その精神を学び合うところになればと考えています。NPO法人となった今、奉仕団体という自覚を持つことが大切になってくると思っています。現実には県からの活動補助金が吸引力となっているところもありますが、公費を受けることにプライドと責任を持って補助金を受けたいものです。

**中山** 補助金といえば、文化庁の各県1億円の助成金がありましたね。1回限りの助成でしたから、事務が面倒だからこんなもの要らないと返上した県もあれば、一つの団体に丸投げした県もあると聞きました。県にとっては、突然、天から降ってきた煩雑な事務なんでしょうが、大分県では県内の芸術文化事業への配分に取り組んでくれましたね。

**佐藤** 文化庁地域文化芸術振興プランですね。大分県では、市町村や文化団体に広く募集、事業を精査して大分県民芸術文化祭をはじめ、約50の文化事業が助成を受けました。

**中山** 本学では、竹田でのアートキャンプ事業や安藤宏子「豊後絞り展」に助成をいただきました。アートキャンプは廃校となった小学校を「芸文短大竹田キャンパス」開設につながりましたし、「豊後絞り展」では開催期間の短いなかでしたが（6日間）、2500名もの方に見ていただくことができました。その後、安藤さんから「藍の種」をいただき、竹田キャンパスで栽培して、染色に生かそうともしています。安藤さんには芸短大の工房で染色のワークショップもしていただいたんですが、そのなかでお母さんと一緒に来た5歳の子どももいましたし、小学生たちも実に独創的な作品を作りました。初心者がこんなに大きな（学長手を大きく広げる）、素晴らしい作品を作るんですよ。

**佐藤** 学生もそうでしょうが、若いときに新しいことに挑戦することはとても大事なことだと思います。芸短大が県民にこういう機会を与えてくれるのは本当に嬉しいですね。

#### 学生たちの発する光を認めてくれる人になって！

**中山** ありがとうございます。芸短大はもちろん学生や教員たちの教育研究の場ではありますが、施設を使っていない場合には一般の方にも

使っていただきたい。芸振会議の皆さんも、同じ芸術文化というフィールドで活動をしているのですから、お互いに協力できるところは協力していけたらいいですね。

**佐藤** 芸振も昨年、芸短大の施設を見学させていただいたときに、会議室をお借りして理事会を開催させていただきました。芸振としても芸短大と協力することで、というより教えて頂くことの方が多いたと思います。芸短大は県文化スポーツ振興財団をはじめ、多くの機関と協定を結ばれていますね。

**中山** 今は12団体と協定を結んでいまして、芸振との連携協力は13番目になります。

**佐藤** 芸振にとっては初めての“協力協定”です。これまでは外部や文化団体以外のところと関わっていくということまで思い至らなかったのですが、NPO法人として2期4年、今後の芸振、芸振会員にとってよい刺激になるはずですよ。是非お願いします。

**中山** 協定を結ぶということは将来の新しい関係を築くこと。私はいつも学生に言うんです。「輝いて出て行く光になろう—外から来た光が出ていくときにキラキラと輝く。そういう光になろう」と。

それには光を認めてくれる人が必要です。私は、芸振のような芸術文化に対して関心を持っている皆さんにこそ、光を認める存在になってほしいと期待しています。芸術文化の大学と芸振のような芸術文化の団体、それぞれが力を合わせるととてもおもしろいことができるのではないのでしょうか。協定という堅苦しいですが、前向きに、お互いの個性を生かしてやっていきましょう。

**佐藤** どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。



芸短大での長唄三味線講座

# 平成21年度の芸術振

(会議・事業から)

- 5.15 補助金担当事会議
- 5.20 総務会
- 5.21 第1回役員会
- 6.18 平成21年度通常総会(大分第一ホテル8階九重の間)
- 6.18 ●日田市立若宮小学校(大分演奏家協会)
- 6.22 ●国東市立富来小学校(別府溝部学園短期大学ハンドベルリンガーズ)
- 6.25 ●日出町立藤原小学校(大分県児童文化研究会)
- 7. 9 ●豊後大野市立千歳中学校(さくら会)
- 7.14 ●宇佐市立深見小学校(Spa Trio) 文化振興財団共催
- 7.21 ●大分県立鶴見養護学校(大分県児童文化研究会)
- 7.23 第1回理事会
- 8.24 第2回理事会
- 9.15 第3回理事会
- 9.25 ●宇佐市立西馬城小学校(大分県県民オペラ協会)
- 10. 1 ●由布市立朴木小学校(アンサンブルアルカート) 文化振興財団共催
- 10. 6 ●竹田久住小学校(大分オペラアンサンブル)
- 10.14 ●由布市立阿南小学校(Spa Trio) 文化振興財団共催
- 10.15 ●大分市立滝尾小学校(別府溝部学園短期大学ハンドベルリンガーズ)
- 10.20 第4回理事会
- 10.22 ●大分県立大分養護学校(大分県人形劇サークル協議会)
- 10.22 ●大分市立寒田小学校(GEN室内管弦楽団を招く会)
- 10.22 ●竹田市立直入中学校(大分県県民オペラ協会)
- 10.26 ●大分市立横瀬西小学校(アンサンブルVIVO) 文化振興財団共催
- 10.27 ●日田市立赤石小学校(Spa Trio) 文化振興財団共催
- 10.28 ●佐伯市立渡町台小学校(アンサンブルVIVO) 文化振興財団共催
- 10.29 ●大分市立三佐小学校(アンサンブルアルカート) 文化振興財団共催
- 10.29 ●佐伯市立松浦小学校(グループUNO)
- 10.30 ●杵築市立東小学校(植田ほがらか劇団)
- 11. 3~6 ●きつき生涯学習館(大分県美術協会写真部会)
- 11. 5 ●由布市立東庄内小学校(大分県三曲協会)
- 11. 5 ●佐伯市立八幡小学校(ピアノ演奏グループ「未来」大分県支部)
- 11. 5 ●豊後大野市立百枝小学校(大分県人形劇サークル協議会)
- 11. 6 第5回理事会
- 11.13 ●別府市立緑丘小学校(YOの会)
- 11.17 ●大分市立鴛野小学校(グループUNO)
- 11.19 ●別府市立西小学校(大分マンドリンオーケストラ)
- 12. 1 ●中津市立三郷小学校(カサ・デ・ギターラ)
- 12. 6 芸術文化事業麻生八咫・子八咫の親子活弁とジオラマ映画「ゆめまち観音」
- 12.17 文化を語る夕べ
- 1.22 ●佐伯市立青山小学校(YOの会)

●は文化キャラバン事業です。



平成21年度通常総会 6月18日



別府溝部学園短期大学  
ハンドベルリンガーズ 6月22日



Spa Trio 10月27日



アンサンブルアルカート 10月29日



植田ほがらか劇団 10月30日

- 1.28 第6回理事会
- 2.12 海外派遣研修者選考委員会
- 2.25 第7回理事会
- 3.11 文化キャラバン担当理事会議
- 3.14 役員選考委員会
- 3.15 第8回理事会
- 3.18 運営協議会



大分県人形劇サークル協議会  
11月5日



文化を語る夕べ 12月18日

## 芸振文化事業のご報告とお知らせ

麻生八咫・子八咫の親子活弁とジオラマ映画「ゆめまち観音」へのご協力ありがとうございました

年末の慌ただしい時期の実施となりましたが、会員の皆さんをはじめ、麻生八咫さんの出身地、豊後大野市から大勢の方にご来場いただきました。

親子の息ぴったりの活弁で片岡千恵蔵版「暎の母」を、生の活弁が臨場感を添えた「ゆめまち観音」ではジオラマ（ジオラマとアニメを合わせた創作語）の不思議な世界を楽しんでいただきました。



さて、これまで芸振文化事業では日本の味わい、楽しさを伝える公演を続けて参りましたが、平成22年度はいよいよ「落語」の登場です。

### げいしん落語会

- ・開催日時：平成23年2月19日(土) 14:00～15:30
- ・開催場所：iichikoグランシアタ
- ・出演：柳 亭 市 馬 1961.12.6生 緒方町出身  
 (予定) 桂 平 治 1967.8.25生 院内町出身  
 三遊亭歌奴 1977.3.19生 大分市出身  
 三遊亭鳳志 1976.12.5生 玖珠町出身

大分県出身の若手・中堅の  
落語家真打がそろい踏み

### “げいしん落語会”

を予定しております

チラシ等のご案内は9月中旬頃を予定しています。ご期待ください。

新規  
事業

平成22年度から  
新規事業「演奏者等紹介事業」を始めます。

登録者を募集しています

演奏に限らず、芸術文化の実演、展示、指導など、芸術文化に関することであれば、規模、内容は問いません。みなさんの日頃の文化活動の中から、こんなことができるといった内容をご登録ください。

登録いただいたみなさんをHPや文書で 県内の市町村及び市町村教育委員会、文化施設、小中高等学校、福祉施設、病院 など紹介します。

個人会員や団体会員、さらに団体会員の中の小さいグループでも登録できます。

▶ 詳細はHPや正会員宛に送付の「募集のお知らせ」をご覧ください。



# 大分県民芸術文化祭

## 第12回大分県民芸術文化祭 平成22年10月・11月

テーマ「おおいた発 アートの風2010」 主催行事のお知らせ

### 開幕行事

“永遠の名旋律”長唄三味線演奏会～当代名手による夢の共演～

平成22年10月3日(日) 13:00～15:30 iichikoグランシアタ

大分県長唄連盟による流派を越えた演奏会。各流派宗家クラスの演奏家が共演、三味線のファンでなくても必見です。

長唄三味線の古典や洋楽とのコラボレーションなど長唄三味線の伝統と今を堪能して頂けるプログラム、フィナーレには創作長唄「豊後の奇人 新曲吉四六物語」を出演者全員で大演奏。大分県民なら誰でも知っているユーモラスな吉四六さんのお話が長唄三味線で甦ります。また、9月12日(日)には“長唄三味線レクチャー”を開催予定。実演を交えながら今回の演奏会の監修をされる杵屋六翁氏による解説があります。詳しくは6月中旬発行予定のチラシをご覧ください。

▶問い合わせ先：櫻井097-537-1765

### 閉幕行事

第50回記念大分県三曲協会定期演奏会

平成22年11月28日(日) iichiko音の泉ホール

ゲストに砂崎知子氏、藤原道山氏を招き、協会の演奏を併せ、演奏。

チラシ・チケット発売は6月中旬予定。

▶問い合わせ先：二宮097-583-1804

### 大分県美術展

第46回大分県美術展

平成22年10月5日(火)～24日(日) 大分県立芸術会館

詳細決定は7月中旬。

▶問い合わせ先：大分県美術協会事務局

### 実行委員会行事

ピアノ松本和将さん／ヴァイオリン長原幸太さん／チェロ金子鈴太郎さんの若手ソリスト3人と大分出身の生野正樹さん、朝来桂一さんによる室内楽コンサート「気楽にクラシック SuperVersion」平成22年11月19日(金) iichiko音の泉ホール が決定しました。

さらに大分県文化スポーツ振興財団と特定非営利活動法人中津文化協会の協力を得て、平成22年11月20日(土)中津文化会館大ホールの公演も行います。チラシ・チケット発売は6月中旬予定。

▶問い合わせ先：下記実行委員会事務局



## 平成21年度 第11回 大分県民芸術文化祭

文化庁地域文化振興プランの該当事業として助成金を受け、文化祭行事33、参加行事183が9月～12月の間、大分県内で盛大に開催されました。皆さんのご参加ありがとうございました。実行委員会では第11回の事業をまとめた記録集を文化祭で事業実施された団体や芸振の団体会員にお送りしていますが、個人会員の方で記録集をご希望の方は下記実行委員会事務局までお知らせ下さい。お送りいたします。

大分県民芸術文化祭実行委員会 〒870-0035 大分市中央町3-6-13 2F 大分県芸術文化振興会議内  
TEL097-536-0522 FAX097-536-6188 Email info@geishin.jp



# 会員活動紹介

## 豊光会（東光会大分支部）

佐藤京子

### 団体のこと

日展傘下の洋画団体、東光会の大分支部として1963年に創立されました。自然の風景や静物、人物そして日常の景色を題材としたものが多く、最近では、その表現方法にも新しい技術を取り入れた作品もでてきています。

年1回の作品研究会では、日展評議員の佐藤哲先生を招いて、「絵とは何か？ どう表現していくのか？」を真面目に勉強。豊光会以外の人や県外にも声かけし、豊光会年中行事として定着してきました。

今年は、第45回記念豊光会展を県立芸術会館第一室で開催します（11月30日(火)～12月5日(日)）。一人大作3～4点、小品も1～2点展示する予定をしています。東光展の小品展コンクールでの受賞作品を県内で披露していないままであったからです。会員は、大作でも小品でも気を抜くことなく、日頃から全力でぶつかっていく意識をしています。

期間中の12月4日(土)13:30～15:00、芸術会館の主幹学芸員 加藤康彦先生に「絵画の中のムーブメントー江藤哲の場合」と題して講演をして頂く計画をしています。多くの皆様のご来聴をお待ちしています。

又、今年は7月8日～8月8日第41回日展の巡回展が芸術会館で開催されます。豊光会から佐藤京子、吉田定の2名が出品、佐藤哲先生の最高賞受賞作品も展示されます。

豊光会は、会員22名という少人数ではありますが、それぞれが個性を発揮しながら、これからも前へ向かってしっかり歩いていきたいと思っています。

### 芸振にのぞむこと

それぞれのジャンルの個性を生かしながら、大分の文化をひたすら支える役割をいつもして頂いて感謝しております。今後ともお互い手を取り合いながら進んでまいりましょう。

どうぞよろしくお願い致します。



第44回豊光会展一講評をしていただいた菅久先生と

## 特定非営利活動法人 中津文化協会

理事長 大倉靖生

### 団体のこと

中津文化協会は昭和55年、中津文化会館設立の翌年に中津市内の文化団体50団体が集まり、事務局を文化会館内に設け発足しました。市より文化事業補助金を頂き、中津市に代わり中津文化会館及びリル・ドリームを中心に、地域の文化発展向上に寄与して参りました。

平成20年9月特定非営利活動法人格を取得し、協会内においては組織・体制を整え、地域社会に於ける信頼と芸術文化振興に対する責任の存在を明確に致しました。

平成21年4月より中津文化会館・リルドリーム指定管理者として、施設の管理貸館業務並びに地域の芸術文化振興向上に努めています。

### 「ハード&ソフト」が融合する

#### 中津市の文化拠点基地をめざして

### 22年度文化会館事業

#### ◎ハード面（文化施設）

→もう一度（来たい）利用したい文化会館

大型スクリーンの設置・一点美術館の設置

#### ◎ソフト面（文化事業）

→「創る」「育つ」「楽しむ」の文化事業を開催

5月 出演者募集中！

市民参加ミュージカル「ハロー。天使です。」

6月 杉本彩ビューティーライフトークショー

6月 おじさんバンドライブ IN 中津（春・秋）

7月 ワンコインジャズコンサート

8月 市民参加ミュージカル「ハロー。天使です。」

夏休み家族友だち絵画教室

9月 秦万里子トーク&コンサート

10月 第14回なかつ市民芸能祭

11月 第4回イラストコンクール

第3回音コンテスト

大分県民芸術文化祭中津公演 気軽にク

ラシックSuper Version

2月 なかつ寄席「三遊亭円楽独演会」

### 芸振にのぞむこと

加入団体相互の交流事業の開催

# 大分県立芸術会館からのお知らせ

平成22年4月1日受付から**芸館文化ホール**の使用申込み方法が変更になりました。

申込み方法や使用日の空き状況等については、**大分県立芸術会館総務課097-552-0077**までお問い合わせください。

## 新 入 会 員 紹 介

### ・団体会員

| 団 体 名                   | 部門 | 代表者  | 事務局長  | 事務局所在地                             |
|-------------------------|----|------|-------|------------------------------------|
| 特定非営利活動法人 BEPPU PROJECT | 総合 | 山出淳也 | －     | 別府市汐見町9-1<br>観光港第3埠頭ターミナル2Fみなとパレット |
| 豊後たんぽぽの会                | 総合 | 二宮次蔵 | 清水ちよ子 | 大分市新栄町4-8                          |

### ・個人会員 前村京子（音楽）、野田剛史

## 退 会（申し出によるもの）

### ・団体会員 なし

### ・個人会員 荒武久美子、廣瀬蘇水、中谷都志郎、後藤智江、尾野るり

## 物 故 者

### ・個人会員 野崎 哲（名誉会員）、仲町謙吉（名誉会員）、小長隆成（大分県県民オペラ協会） ご冥福をお祈りいたします。

## お 知 ら せ

### ◎理事会だより

大分県文化年鑑2009の原稿ありがとうございました。

ただいま作成中です。発行は例年どおり、芸振の通常総会（22年度は6月10日）を予定しています。しばらくお待ちください。

### ◎事務局だより

会費の納入依頼をお送りしています。できるだけ年度開始から1か月（4月30日）を目途に納付してください。退会される場合は必ず文書（FAX可）で下記事務局までお知らせください。お知らせがない限りは会費の請求が起きます。

なお、未収会費のある会員には別途お知らせしておりますが、会費の2年滞納で会員資格が喪失しますので、ご注意ください。

どうぞよろしくお願いします。

### 特定非営利活動法人 大分県芸術文化振興会議

〒870-0035 大分市中央町3丁目6-13 岩尾文具別館2階

TEL：097-536-0522 FAX：097-536-6188 E-mail：info@geishin.jp URL：http://www.geishin.jp/